



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:106.

化学療法を受けることを選択した進行非小細胞肺癌患者の意思決定の
体験

尾山 朋世

化学療法を受けることを選択した 進行非小細胞肺癌患者の意思決定の体験

旭川医科大学病院 9階西ナーステーション 尾山 朋世

目的

化学療法を受けることを選択した進行非小細胞肺癌患者の意思決定の体験とその意味を明らかにし、意思決定支援のあり方の示唆を得る。

方法

非構造的面接法を用いて対象者の自由な語りを促し、この語りを逐語録に起こした。現象学的心理学者である Colaizzi の分析方法に基づき、データの分析・解釈を行った。得られた体験の解釈から共通性を導き出し、体験の構造を見出した。

結果

3名の対象者の平均年齢は70.6歳で3名とも肺腺がんの病期ステージⅣであった。告知から初回面接までの期間は約3週間～約1年7か月であった。

【Aさんの体験】女性、クリゾチニブ単剤療法	
体験の記述	体験の解釈
告知前から肺がんの可能性を予測していたため、告知を受けた際には治療を受けることを「前向きに」捉えられ、「自然」な「流れ」で治療を「受け取」った	告知前に、気持ちが定まらず揺れ動きながらも、肺がんになり立ち向かう心積もりを重ねていく
「お父さん（夫）のおかげ」や「見えない」「誰か」のおかげで、病気になっても「淡々と」した気持ちで過ごすことができ、「前向きになれたのかも」しれないと思う	夫の生き方を受け継ぎ、辛い状況にあっても、前に進む
子供たちに心配はかけられないという思いから、「笑って」「前向きに」生きていくことを意識する	親としての役割を認識し、前向きに治療を受ける意志を固める
治療については「先生にお任せするしかない」と認識する一方で、治療の効果を期待し、辛い治療にも「ぶつかって」いく思いで治療に立ち向かう	治療方法を医師に委ねる選択をしながらも、治りたいという希望を抱くことで、治療に立ち向かう気持ちを強くする
【Bさんの体験】男性、CCDP+PEM+Bev	
体験の記述	体験の解釈
「これ以上、生きようと思えば、手術して、治療して行くしかない」という一心で、治療を受ける「流れ」に乗った	生きるためには治療を受けるしかないという思いで、治療に希望を持ち、治療を受ける流れに乗った
「家族のために手術してくれ」という妻の言葉を受け、家族のためにも「生かれるもんだったら、手術をして、生きてみようか」と、治療を引き受ける意志を固めた	家族のために生きていくことを認識する中で、治療を受けることの意味が強まり、治療を引き受ける決意を揺るぎないものとした
価値を感じる「何か」を続けながら、「80（歳）を超え」をしたいという目標に向かって、治療を受ける道を進む	肺がん罹患したことでの今後の生き方を再構築し、80歳を超えるという目標に向かって、治療を受ける道を進む
【Cさんの体験】女性、CCDP+PEM+Bev	
体験の記述	体験の解釈
治療を受ける病院をセカンドオピニオンを受け自身で選択し、治療のリスクを認識した上で、医師に提示された治療を受け入れた	肺がんである自分と積極的に対峙しようとする姿勢で、治療を受ける心構えをし、治療を受け入れた
「治らない」病気であると認識した上で、治療継続のために療養環境を整え、体調管理の方法を模索しながら治療を受ける	深刻な病状を受け止めたからこそ、治療を生活に組み込み、自分が価値を置く環境で治療を受けていく意志を固める

考察

共通性から見出された体験の構造	体験の意味
告知前に、紆余曲折しながら、肺がんになり立ち向かう心積もりを重ねていく	告知前に、不確かな状況の中で、なんとか気持ちの安定を保つために奮闘し、肺がんとの向き合い方を見出していく
家族から受け継いだ信念のもと、肺がんになり立ち向かう強さを持つ	周囲の人々との関わり合いを通して形成した信念をもとに、肺がんとの闘う意志を強め、治療を受ける意思決定を行う
家族を想うことで、自身のあり方を見出し、治療を受ける決意を固める	家族との関係性の中から、治療を受けていくことへの意味を見出す
治療への希望を持つことで、治療に挑む意志を保つ	困難な状況にあるからこそ、希望を持ち続けることで、肺がんになり立ち向かう意志を強くする
命の限りをみだからこそ、これまでの自分を振り返り、これからの生き方を再構築する	肺がん罹患したこと、これまでの生き方を見つめ直し、新たな価値を見出すことにより、治療を受ける意志を強くする

看護への示唆

- 告知前の患者の心情の理解を深め、積極的な対話をもとに、患者の現状の認識や受け止め、見通し、感情などを分かち合う。
- 患者の持つ信念を治療を続けていく上での強みと捉え、信念を支持し、強化する。
- 困難な状況にあっても、希望を見出すことのできる患者の力を強みと捉え、希望を抱く患者をそのままに受け止める。

結論

- ◆ 進行非小細胞肺癌患者の意思決定の体験は、その人の人生経験や価値観、過去や現在、未来など、脈々とつながる様々な出来事により影響を受け、その都度の状況下で行われることが明らかになった。
- ◆ 患者の意思決定を支援する上では、現在ここにある患者のあり方ばかりでなく、患者がこれまでどのような人生を送り、これからをどのように生きたいと考えているのかといった、より広い視野で患者を捉える視点が重要である。